

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念		
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み		
	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透		
	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい		
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい		
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
6	事業所の力を活かした地域貢献		
	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用	外部評価は、1年に1度、苑全体と、自分たちの行動を振り返り、改善してゆく場であるとスタッフは理解している。自己評価を行い自分たちを振り返り又、第三者の方の目で見ていただき、意見を生かしてゆくことでより良い苑にしたい。		
	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
8	運営推進会議を活かした取り組み	地域の方や家人からの良いアドバイスを、頂けることもある。色々な方からの意見を聞き、反映することでスタッフと共にサービスの向上に努めている。外部評価の報告も会議の場で行っている。		
	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
9	市町村との連携	市町村に出かける機会を作り、疑問点などは解決してゆくようにしている。市町村から誘いのある行事にも参加して協力している。市町村からの委託や協力できることがあれば協力する意思を伝えている。地域で認知症の方への理解を深めることを期待している。		
	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	権利擁護に関する制度の理解と活用	成年後見制度や、地域福祉権利擁護事業などの研修にも参加し、説明や必要な方には活用できるよう支援体制ができています。必要と思われる方に話をしているが、理解することが少し困難なこと、気持ちがまとまらない等のために話が止まっている。		
	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	虐待の防止の徹底	言葉・拘束・体罰全てに置いて、虐待であることを把握した上で、ニュースなどで聞く出来事についても話を常にして、お互い気を付けるよう声を掛け合っている。職員もゆとりを持った介護を心掛けている。		
	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得	契約の際や、解約をされるに当たっても、じっくりと家人から話を聞き、お互いが理解でき信頼が持てるよう心掛けている。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映	自分から表現できる方に置いては、話を聞き、表現できない方は、出来るだけ気づく事で改善している。介護支援相談員の方も1回/月来苑していただいている。		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	家族等への報告	家人が来苑された時には、スタッフも含め家人と、話の出きる環境づくりをしている。その際、入居者の状況・必要なもの・職員の状況などの報告をしている。またご家族に苑便りや近況報告を送付している。		
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
15	運営に関する家族等意見の反映	苦情相談窓口の連絡先の掲示をしている。玄関にご意見箱を設けている。また、家人が来苑されたときには、意見や不満な点は無いかを、聞くようにしている。		
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	運営に関する職員意見の反映	カンファレンスや会議の場で、意見・提案を出していただき、反映している。		
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	柔軟な対応に向けた勤務調整	スタッフ全員が協力的で状況変化に応じ勤務調整が出来ている。夜間急病時の緊急時や突発的事故の場合でも協力が得られている。		
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			
18	職員の異動等による影響への配慮	利用者の不安が募らない又、馴染みのスタッフで介護を行うように心掛けている為、長期的な異動は3年間行っていない。ユニット別のスタッフが別のユニットを知る為にも研修として短期間、職務を行うようにしている。		
	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重	年齢・性別には、全くこだわりは無く、優しい方思いやりのある方を対象としている。現在、働いている職員も、研修や資格を取るための勉強を通して、自己実現にむけての充実感を感じてもらえればと考えている。また、十分な休息を取ってもらうことで、明日への活力にしてもらえる事を希望している。		
	法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動	自分たちよりも、いろんな経験をされてきた人生の先輩であることを、常に頭に置くよう、話をする機会がある時にはしている。相手を思いやる気持ちを、大切に職員間でしている。		
	法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる			
21	職員を育てる取り組み	段階に応じた研修を取り込んでおり、年度始めに大まかな計画を立てている。研修で得たことは、働く上で役立て、他の職員にも伝達してもらいたいと考えている。		
	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
22	同業者との交流を通じた向上	地域のグループホームの会議を1回/2ヶ月設けており、交流・意見交換・勉強の場となっている。この会議を通しより良いアドバイスを頂き活かすことが出来ている。		
	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み	慰労の気持ちで、2回/年の食事会やボーリング大会をする機会を設けている。		
	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる			
24	向上心を持って働き続けるための取り組み	研修への参加に努めており、職員が向上できる機会を作っている。職員に声掛けをしコミュニケーションを出来るだけ図っている。		
	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係	本人が、自分を表現してくれるまでの時間を大切にしている。言葉で表現できにくい方もおり、行動、表情、仕草から、受け止める努力をしている。		
	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			
26	初期に築く家族との信頼関係	相談が合ったときから、何度か話をさせていただき、家人が不安に感じていること、伝えたいと思っていることを話しやすい環境にしながら、聞くように努めている。		
	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援	家人とご本人の気持ちに食い違いがあることもあり、状況に応じては、ゆっくりと考える時間と、アドバイスをしている。また体験入所を利用していただき、必要としているサービス、または他のサービスの必要性を十分に見極め対応に努めている。		
	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
28	馴染みながらのサービス利用	まず、環境に馴染める援助から行い、3日間の体験入居をしている。スタッフ・他の入居者とのより良い関係作りを、声掛け等を通して心掛けている。利用者の状況を家人にも説明し納得した上で入居して頂いている。		
	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係	介護しながらも、一緒に時間を共有し、出来るだけたくさんのお話・行動を共にし、笑ったり泣いたり家族の様な気持ちで接している。また、入居者から学ぶことは多く、時には職員は励まされている事も多い。		
	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			
30	本人と共に支えあう家族との関係	入居者の普段の状態を家人に伝え、何でも相談や話が出きる信頼関係を、築いている。家人と共に、一喜一憂している。		
	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている			
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援	本人との家族関係を把握した上で、お互いがより良い関係でいられるよう支援している。		
	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している			
32	馴染みの人や場との関係継続の支援	家に外出・外泊をした際に友人と会ったり、家の近くや、良く行っていた場所にドライブをする事もある。知り合いの方で、苑に遊びに来て頂いた方には、職員から又、来て頂けるよう声掛けをしている。		
	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
33	利用者同士の関係の支援	利用者の個性、性格を十分に把握しトラブルや孤立を未然に防ぐように努めている。利用者同士、又利用者スタッフとの良い関係を築く様を心がけている。		
	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている			
34	関係を断ち切らない取り組み	電話にて近況報告したり、逢った時は健康状態等を気遣ったりしている。「いつでも苑へ遊びにきて良いですよ」と声を掛け関係を保つようにしている。		
	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握	意志を伝えることの出来る方においては、本人の意向を出来るだけ聞き対応している。しかし、なかなか意志を伝える事が出来ない方は、今までの生活に近い状態に、家人からも話を聞きながら近づけている。	
	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		
36	これまでの暮らしの把握	よりよい生活をして頂くためには、まず暮らしの把握が必要である。しかし、中には、一緒に生活を共にしていることで気づかされる事もあり、時間をかけて把握して行くこともある。	
	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
37	暮らしの現状の把握	生活歴・体力・精神状態・何が出来るか、出来ないか全体像を掴むように努めている。	
	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画	普段の様子から本人の要望・課題とする所を見つけ、カンファレンス等を通して、職員との話し合いを持ち、介護計画作成に繋げている。家人には、状況報告と共に介護計画に対して話し合いを持っている。	
	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		
39	現状に即した介護計画の見直し	3～4ヶ月おきに介護計画の見直しを行っている。また、何か問題があった時には、その都度カンファレンスを開き家人にも相談した上で、計画の見直しを行っている。	
	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		
40	個別の記録と実践への反映	計画を把握できるよう、個別記録の最初に計画を貼っている。記録も計画を実践し気づいたことや、新たに発見したことを記入し、計画の立て直しに役立てている。	
	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援	出来るだけ、入居者・家人の要望に添えるよう、話し合いを持ちながら、対応している。	
	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働	民生児童委員の運営推進委員会の出席やボランティア(踊りや唄、フラダンス等)の慰問、警察(おまわりさん)の巡回、消防の(消防訓練、AEDの救命訓練)来苑。小中学校の体験学習など地域資源との協働を行い支援している。	
	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		
43	他のサービスの活用支援	他のケアマネージャーとの交流はあるが、今のところは他のサービスを受ける状況には、至っていない。必要であれば、他のサービスを利用する準備はしている。	
	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
44	地域包括支援センターとの協働	地域包括支援センターとの接点はあるが、協働している事は現在は無い。必要性に応じて対応して行きたい。	
	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		
45	かかりつけ医の受診支援	契約時にかかりつけ医の継続や協力医療機関利用の相談をし本人、家族の意向に添える様支援している。苑の協力医療機関は24時間対応可能である。かかりつけ医受診は出来る限り家族の協力で行うが困難な場合は苑で受診対応している。	
	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		
46	認知症の専門医等の受診支援	専門医ではないが、近医の先生にまず相談して出来る範囲での治療・アドバイスをしていたが、必要時は直ぐに専門医を紹介して頂けるよう連携が取れている。	
	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
47	看護職との協働	職員に看護師がいるので、利用者の事も良く把握されており、直ぐに相談し対応できる状況が出来ている。	
	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働			
	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院をすることになった時には、病院関係者の方との情報交換は、常に行っている。入院により、環境が変わり認知症が進まないよう、早期の退院にも対応できるよう病院との連携をとっている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有			
	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の方においては家人・医師を交えて話す機会を作っている。どのような治療方針を取るか、どのような状態になったら入院が必要となるか話し合いの上、対応している。スタッフには、状況をその都度報告し、共有し対応している。看取りについても契約時に説明を行い、同意を得ている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援			
	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との連携を取りながら、本人・家人の希望も聞き、出来るだけ住み慣れた場所で、なじみの職員と過ごし、気にせず要望を言える環境のなかで過ごしていただいている。しかし、これ以上の対応は、医療施設が必要と判断されたときには、入院の運びとなっている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止			
	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境が変わる事への混乱・不安を最小限にするための対応を、知り得た情報から職員で話し合い、対応するようにしている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底			
	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	相手を敬う気持ちで接するように心掛けている。また、自分に置き換えて、されてイヤと思うことはしないよう気を付けている。記録や個人情報に置いては外部には漏れないよう、細心の注意を払っている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援			
	本人が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の気持ちを表す事が出来る方には、どうしたいのか、問いかけるようにしている。また、「はい」「いいえ」の回答であれば希望を表現の方は、質問を簡単にしてきている。表情で判断することもある。		
54	日々のその人らしい暮らし			
	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方の意志・健康状態など考慮した上で、出来るだけ自由に、そして希望に添えるように援助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援	本人・家人の希望があれば、望む理容・美容院に連れて行っている。希望が無いときには、苑内でカットをし身だしなみを整えている。	
	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
56	食事を楽しむことのできる支援	栄養バランスには気を付けながら、好きなものを出来るだけ取り入れている。時には、メニューから決めていただき、料理や片づけ食事も職員と一緒にしている。	
	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
57	本人の嗜好の支援	身体に害を及ぼさない程度、周囲に迷惑をかけない程度に支援している。	
	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
58	気持ちよい排泄の支援	尿意のない方においては、綿パンツに尿取りパットのみで使用で不快感を無くし、排泄パターンを把握して、トイレ誘導をしている。	
	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日は決まっているが、利用者の希望が希望があれば入浴できるように準備している。時には温泉に出かけて入浴する機会を設けている。家族風呂を貸しきって温泉に入る計画も立てている。	
	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
60	安眠や休息の支援	その方の習慣・体調・希望に合わせて、休息をとっていただいている。就寝は、個人差があり早い方・遅い方それぞれであり、入居者の方の生活習慣に合わせている。	
	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の方に合った役割を見つけ、無理の無い程度に毎日行って頂き、感謝の気持ちをスタッフが伝えている。何を望んでいるか見つけ、レク・行事・外部への行事参加・ドライブ・外出・外泊などを通して楽しみを作り、気晴らしを図っている。	
	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援	自分で選んでお金を支払い、欲しい物を買う事の大切さは理解している。家人からおこずかい程度のお金を預かっており、買い物や行事で出かけた時に使用している。		
	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
63	日常的な外出支援	散歩・買い物・病院受診・ドライブ等を通して、出かけたという気持ちに対応している。		
	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
64	普段行けない場所への外出支援	お芝居や、コンサート、演奏会、道の駅、お祭り、お宮、お花見等に出かける機会を作っている。毎月1回は必ず出かける機会がある。家人にも声掛けをする。時には、他の入居者の病院受診に一緒に出かける。		
	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している			
65	電話や手紙の支援	電話を家人にかけたり、手紙を書く支援をしている。		
	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
66	家族や馴染みの人の訪問支援	ゆっくりと過ごせ、職員の対応も良く、又、来たいと思われるような雰囲気づくりを心掛けている。		
	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践	身体拘束は、どのような事を言うの、運営者・職員全員がしっかりと把握し、出来るだけストレスを感じさせない環境づくり、介護に取り組んでいる。		
	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
68	鍵をかけないケアの実践	鍵をかけることは、抑制であり、ストレスにつながる事を運営者・職員共に把握している。鍵は日中かけていない。しかし、入浴中だけは、見守りが十分で無いこともあり、玄関にお断りの札を出して鍵をかけている。		
	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
69	利用者の安全確認	束縛感でなく、安心感を与える事が出来るよう見守りを行い、安全に配慮している。		
	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理	問題が起きたときに、直ぐにそれを除去するのではなく、工夫することで解決できないか話し合いを持ち、良いアイデアを出し合っている。		
	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている			
71	事故防止のための取り組み	事故防止のためのマニュアルを作成し、勉強会をして、対応できるよう心掛けている。入居者個人個人が、どのような事故を起こしやすいか職員は把握している。		
	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる			
72	急変や事故発生時の備え	マニュアルを作成しており、直ぐに対応できるよう職員間で訓練をしている。		
	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている			
73	災害対策	消防訓練、避難訓練を消防署の方の協力の元、日中・夜間と行っている。近所の方にも運営推進会議や行事の際に協力をお願いしている。また区の消防団の方にも協力していただき、苑内の状態を知っていただいている。非常事態に備え、水や非常食、毛布などを準備している。		
	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
74	リスク対応に関する家族等との話し合い	入居者の状況を家人に説明し、起こりうるリスクにおいても話している。出来るだけ、抑圧感なくプライドを傷つけない方法を家人、職員と話し合い検討している。		
	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている			
78				
75	体調変化の早期発見と対応	普段の体調を把握し、変化に直ぐに気づけるようにしている。気づいたことは、直ぐに話し合い、早い対応を心掛けている。		
	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている			
76	服薬支援	内服中の薬の効能・副作用を把握できるようにしている。また、現在内服中の薬の勉強会を行った。薬が変更になった時は、症状の変化の観察をするようにしている。		
	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
77	便秘の予防と対応	高齢者の体質、便秘が引き起こす病気を把握している。食物繊維の多い食事・水分摂取に心掛けている。出来る範囲での運動をするようにしている。		
	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持	毎食後、口腔ケアをしている。その際、舌の状態・歯の状態・入れ歯の状態・口腔内の残存物の観察など行い清潔保持に努めている。		
	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている			
79	栄養摂取や水分確保の支援	その方が、どのような食生活であったか把握した上で、1日を通しての必要な食事摂取量を割り出し無理のない程度すすめている。状態に応じて、とろみ食・きざみ食・お粥など取り入れている。		
	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
80	感染症予防	感染症マニュアルを作成しており、それにもとづいて予防や対応をしている。		
	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)			
81	食材の管理	衛生品に対しては、定期的に消毒を行っている。食品は、たくさん買い込まず、回転させるようにしている。食事の時間ぎりぎりに来るように心掛けている。		
	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている			
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫	玄関の鍵は、常に開放しており、家人・知り合いの方・近所の方が気兼ねなく出入りできるように心掛けている。雰囲気も花を植え清潔感があり、また来たいと思えるような家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。		
	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている			
83	居心地のよい共用空間づくり	家庭的な落ち着いた雰囲気となるよう置物や装飾を施している。また、入居者の方が、混乱を起こさないよう環境整備をし、目印となるものを付け位置を把握できるようにしている。		
	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり	一つのフロアの中にも、二つの空間を作ったり、日当たりの良い廊下に椅子を置くことで別の空間を作り、気のあった物同士が過ごせるように配慮している。		
	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
85	居心地よく過ごせる居室の配慮	住んでいる部屋の雰囲気に近づけるよう家人・入居者に協力して頂いている。なじみの品・写真・大切なものを飾り側に置いておくことで、安心感を持てる作りを心掛けている。		
	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	換気・空調の配慮	適宜、換気を行い、温度計・湿度計を置き温度調節を心掛けている。冬場には加湿器を置き空気の乾燥を防いでいる。個人の好み・体調にも、考慮した温度調整、快適に過ごせる配慮をしている。		
	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり	使いやすさ・使うことが出来るよう工夫している(例：物干しの高さ等)。安全である事は、常に心掛けているが、危険と感じた時には、常に改善・修理を心掛けている。		
	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			
88	わかる力を活かした環境づくり	分かりやすいよう、目印で飾りをしたり、大きな字で表示をする事で、場所の把握が出来るようにしている。しかし、認知度の高い方においては、さりげない誘導をしている。		
	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している			
89	建物の外周りや空間の活用	景色の良い場所にベンチを置いてくつろいだり、畑での野菜づくり、ゲートボール場での活動と、入居者の方も外が好きなこともあり、建物周囲は活動・憩いの場所として活かしている。		
	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている			

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・外部との交流を深めるためにも、地域の行事・買い物・散歩・ドライブ・他の苑との交流など積極的に行っている。
- ・地域の方との交流を図るため、散歩に出たときの挨拶・缶拾い・地域の清掃活動・行事(出店)を通じての交流をしている。その成果もあり、野菜の差し入れや、庭に咲いたお花見へのお誘いもある。
- ・入居者とのコミュニケーションを出来るだけとる為、かかわりの持てる時間を作っている。その中で、感じ取ったことを職員間で共有し、問題点などは解決にむけて話し合いを持つようにしている。
- ・職員が研修に行く機会をできるかぎり作っている。新しい知識をつけ、他の施設の方と接することで、モチベーションのアップになっているようである。また、研修の伝達、報告を行うことで他の職員の学んでいる。研修で得た事を実践へとつなげるようにしている。
- ・歯のない方・嚥下の悪い方にも出来るだけおいしく安全に食事を取っていただく為に、食前に口腔のアイスマッサージをしたり、とろみ食の工夫・ゆっくりと時間をかけて食べていただく等の配慮をしている。
- ・水虫の治療などに酸性水などを取り入れ保湿、清潔を保つようにしている。